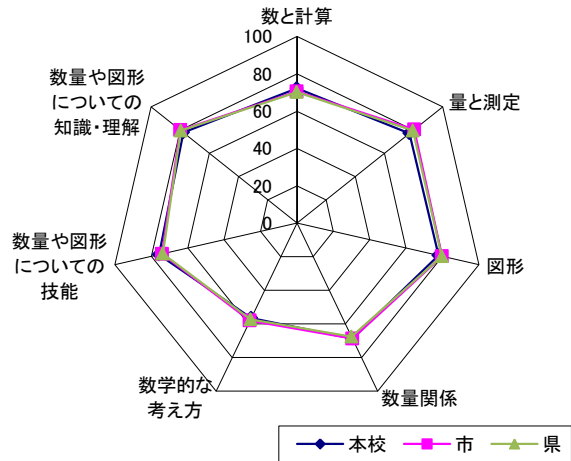


宇都宮市立峰小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	72.3	70.5	70.3
	量と測定	77.2	80.4	79.6
	図形	77.9	79.8	79.7
	数量関係	68.6	68.7	67.5
観点	数学的な考え方	56.4	58.0	57.2
	数量や図形についての技能	75.7	74.1	73.7
	数量や図形についての知識・理解	77.9	79.9	79.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○正答率は72.3%となっており、市と県の平均をやや上回っている。 ○設問別に見ると、3位数×2位数＝4位数、2位数÷1位数＝1位数(余りあり)、整数－小数＝小数(1/10の位までの小数)の問題で市と県を大きく上回っている。 ●設問別に見ると、数直線の見取りを読み取り、分数で表す時刻表から東・西コースの乗船時間を求め比較する設問で、市と県の平均を下回っている。	・フォローアップシートや宮こ学カステップアップシートを中心にドリル的な学習を授業の中に取り入れるとともに、授業のはじめに、数と計算についての基礎的な反復学習をすることで、確実な定着を図りたい。 ・分数や小数などの単元では、数直線をもとにして計算をするなど実際に使う中で定着を図りたい。
量と測定	●正答率は77.2%となっており、市と県の平均をやや下回っている。 ○設問別に見ると、はかりに示された重さを読み取る(2kgはかり)の問題で大きく市と県のを大きく上回っている。 ●設問別に見ると、およそ1kgのものを選ぶ設問で、市と県の平均を下回っている。	・長さや重さの学習において、授業の中に具体物の操作を伴う活動を取り入れ、体験を通して長さのkmとmの単位の関係を理解したり、身近にあるものの重さを推察したりできるようにする。 ・また、具体物の操作を通して目盛を読む練習をしたり、ドリルやワークシートなどで単位の換算の練習をしたりする機会を作り定着を図りたい。
図形	○正答率は77.9%となっており、市と県の平均をやや下回っている。 ○設問別に見ると、円の直径を表す線分を選ぶ問題で大きく市と県を大きく上回っている。 ●設問別に見ると、半径3cmのボールが縦に3つ入った筒の高さを求める、2つに折った紙を直線で切り、開いてできる図形を選ぶ設問で、市と県の平均を下回っている。	・円の直径と球の直径が同等の意味であるということがきちんと理解できていない児童が見られるので、出題された問題や同類の問題を解く場面を設け、球の直径×球の個数が箱の辺の長さにつながることを理解させていきたい。また、5、6年生で学習する「面積」についての学習につながるように、直径、半径の意味を全員が正しく理解できるように支援していきたい。
数量関係	○正答率は68.6%となっており、市と県の平均と同等である。 ○設問別に見ると、□を用いた乗法の式に適した場面を選ぶ、等分除の問題について、除法の式を立式し答えを求めるの問題で、市と県を大きく上回っている。 ●設問別に見ると、未知の数量を□として、数量関係を線分図に表す設問で、市と県の平均を下回っている。	・既習事項の「絵グラフ」、「棒グラフ」、「折れ線グラフ」を、国語や社会、理科等、他教科の学習においても使用する場面を意図的に設ける。 ・□を使った計算は、線分図などの図を使って復習を行い、同じような内容の問題を繰り返し解くことで、定着を図りたい。